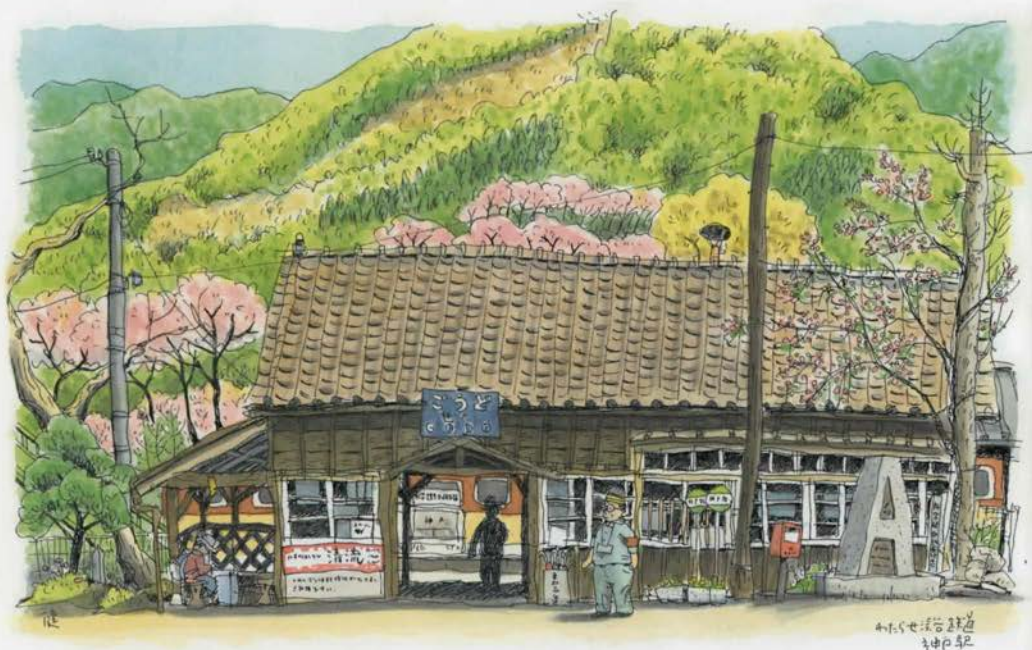


浄土

monthly
JŌDO

2012 4 April



駅

をめぐる
点景

絵

2012年の表紙

村上健

わたらせ渓谷鉄道

神戸駅

わたらせ渓谷鉄道は、群馬県と栃木県に跨がる特定地方交通線の足尾線を引き継いだ第三セクターの鉄道路線です。略称「わてつ」。雑誌などでは「わ鐵」と表記されることもあり、沿線住民は「わた溪」と呼んで親しまれています。12の無人駅には公募のボランティア駅長「ふるさと駅長」がおかれています。1998年からトロッコ列車「トロッコわたらせ渓谷号」が運転開始しました。

「神戸」駅は「こうべ」とは読まず「ごうど」と読みます。

4

月

御殿場

善龍寺

寺に歴史あり
人々に信仰あり
日本の
心の故郷を紀行する

寺院紀行



左奥の霊峰富士を借景にする古刹、善龍寺本堂と
第四十三世向山瑞成住職





本尊阿弥陀如来座像。裏堂に安置してある阿弥陀像の次の本尊となったのがこの阿弥陀様だが、いつ頃の作かはわからない

大遠忌の増上寺での教書伝達式で
八木季生台下から教書を拝受する
向山住職



御殿場市の文化財第一号に
認定された喚鐘。中学校の
教科書に掲載されている



御殿場駅横の駐車場から御殿場市と富士山を望む。
森の奥に善龍寺は位置する



戦前の日本を代表する仏教学者だった高楠順次郎の別荘、楽山荘から遷座された阿弥陀如来座像



山門横に聳える鐘楼。時を知らせる鐘は毎日撞かれている

御殿場駅は東海道線の駅として作られたが、今は沼津と国府津を結ぶ御殿場線の駅となっている



向山住職が発行していた寺報の「勝友」。今はお休み中

浄土

2012/4月号 目次

カラーグラビア寺院紀行 御殿場 善龍寺	写真=タカオカ邦彦	1
浄土アーカイブス●誌上ライブラリ 座談会 法然上人を偲んで 第一回		
武田泰淳 佐藤密雄 仁戸田六三郎 司会・宮林昭彦		6
寺院紀行 御殿場 善龍寺	真山 剛	14
会いたい人 奥田瑛二さん②	関 容子	22
響流十方	林田康順	30
連載小説 渡辺海旭	前田和男	34
極楽に帰った法然上人	石丸晶子	40
Jフォーラム		47
誌上句会	選者=増田河郎子	48
マンガ さっちゃんハネッ	かまちよしろう	51
編集後記		52

表紙裏・ 駅をめぐる点景 村上 健

背表紙裏・ 絵図に見る法然上人



表紙題字=中村康隆元浄土門主
アートディレクション=近藤十四郎
協力=迦陵頻伽舎

浄土アーカイブス

誌上ライブラリー「1961年3月号『本誌七五〇年遠忌記念号』より」

法然上人

を
偲んで

座談会

とき●昭和三十六年一月二十五日
ところ●上野池の端「鉢ノ樹」

第一回

佐藤密雄

(さとう みつゆう)

大正大学教授 文学博士

1901年生、2000年遷化。梵語、パリー語による着実なる研究を進め、1937年『論事覚音註』(カタールヴァツツ・共著佐藤良智)、国訳『薩婆多毘尼毘婆沙』、『分別論上』、『論事』、『分別論下』、『仏祖統記』(上・中・下)、大著『原始仏教教団の研究』、『無量寿経講義』、『大乘戒』、『仏教教団の成立と展開』、『律蔵』、『大乘成業論』

1941年、高德院(鎌倉大仏)住職。70年、勸学、77年、知恩院副門跡就任。

武田泰淳

(たけだ たいじゆん)

作家

1912年(明治45年)2月12日—1976年(昭和51年)10月5日第一次戦後派作家として活躍。主な作品に『司馬遷』『蝦のする』『風媒花』、『ひかりこけ』『富士』『快楽』など。兄は水産生物学者・東大教授の大島泰雄。妻は随筆家の武田百合子、娘は写真家の武田花。伯父は、僧侶・仏教学者・社会事業家の渡辺海旭。

仁戸田六三郎

(にへだ ろくさぶろう)

1907年—1981年

早稲田大学教授 文学博士

宗教哲学。著書に『仁戸田六三郎宗教哲学論集』『悪の研究・序説』『復活について』『神々と神への序説』『悪人正機に関する私観』『タテマエとホンネ』『日本人の宗教意識の本質』等々。

司会

宮林昭彦

(みやばやし しょうげん)

昭和 七年 長野県に生まれる

昭和三十年 大正大学大学院修士課程修了

大正大学講師、同助教授を経て

昭和五十三年 大正大学仏教学部教授

平成 九年 同人間学部部長

平成十四年 同定年退職

現在 大本山光明寺法主

主要著書

『仏教とその流れ』(浄土宗出版室)

『法然上人と浄土宗』(みち書房)

佐藤 今日法然上人が亡くなられた御命日でございます。今日こそ、法然上人の七百五十年目の本当の御遠忌の御命日にあたるわけですが、その日に、皆様に、法然上人を語っていただきたいと思います。かならずしも史実によらなくとも、皆様の目に映じた法然上人を端的にお話しいただければ結構と存じます。

日本仏教における元祖法然の位置

司会 いままで、法然上人が語られる場合救済者としての立場とか、宗門でありますれば、宗祖としての法然上人が語りつたえられて参りましたが、人間的な面の法然上人もふくめて語っていただければと思います。

私たちは、大師さまといえば弘法大師をいいならわし、元祖さまといえば法然上人として居りますが、この元祖ということが出来るとしています。その意味で、まず、日本仏教の歴史の流れのなかにおける法然上人の位置づけをしていただきたいと存じます。

佐藤 日本仏教の元祖ということは、いかえれば、鎌倉仏教の元祖ということで、鎌倉仏教は、法然上人からはじまったということなんです。鎌倉仏教というのは、浄土、日蓮、禅などで、念仏と題目と、そして坐禅の三つが、その象徴をなしているといえると思います。これは何かということですね、それまでの仏教は、つまり仏教とはいうものの祈祷仏教だったんですね。

そもそも仏教というものは、出家をおこなうために日本へ入って来て、その出家に供養することによって、幸福をえようとするのが大体当時の日本の受けとり方だったと思うん

です。だから、お坊さんの神秘的な力を利用して病気を治そうとか、源氏物語をお読みになってもわかるように、將軍が発熱した場合に、まず第一にすることは何かというと、祈祷僧をよぶこと、鎌倉八幡宮にお酒を献上すること、それでも治らないと、源氏の神さまである三島神宮へ使いを出したり、馬を献上させたりする。それでも治らないと、何処かに異変がありはしないか。たとえば、私の住職している鎌倉大仏のちかく、長谷あたりに作りのかけの仏さまがあると、それを供養せねばならないという事になってね、建長年間に供養した。すると一週間目に將軍が執務をとっている、ということです。吾妻鏡などをみても、熱がころっと下った、と出ている。そのように、鎌倉時代は、医者と祈祷師は一つであったが、そういう仏教と区別されてともかく、お念仏して極楽へ行く、題目を唱えて成仏する、坐禅によって悟る、というように、宗教がはじめて日本でつくり上げられた、ということになるんじゃないか。

つまり、仏教全体からいえば、純粹でなかった仏教を純粹にしたということになるし、信仰の形体からいっても、仏教の信仰が、そこからはじまったと考えられます。それは丁度古代が終って中世がはじまる源平時代に、法然上人があらわれて先驅をなされました。法然上人によると、すべて念仏のなかにふくまれるといわれるんです。ある人が「物忌にすべきでしょうか」といったとき、「物忌などは神主がするものであって、仏教徒がするものではない」というような、激しい言葉さえ使われて居られます。そのように、念仏一途に純粹化され、民衆化された仏教というものも、現代では、お経やお念仏もやや呪術化されている面もあり、又、本来の宗教じゃないようなものも、仏教のお寺に附随しているものが、多くあるといった状態になって来ていると思われまします。純粹な宗教というもの

が法然上人により示され、実証され、それに続いて、日蓮、道元、栄西というような人々もなされたのであるといえましょう。

法然の人間像の偉大さ

司会 佐藤先生からお話もございましたが、法然上人は、外来の受容された仏教を日本の宗教として確立された。いいかえれば、日本民族の肌にとけ込ませたともいい得ると思います。そのことは一面、上人が非常に時代意識に敏感だったといえると思うんですが……、武田先生、いかがでしょう。

武田 僕もね、実にえらい人が出たもんだと思うんですよ。それでね、映画で親鸞というのがあったんですが、法然上人のお説教されるところの場面があるんですよ。それは、雨が降ろうが、陽が照ろうが、ずうっと民衆は集まって、その奥の方では、法然上人が静かに語っているんです。それがまた、非常に浄土宗の人にとっては親しみのある、発願文とか、一枚起請文とかからとっているわけなんです。観客は、はじめて聞くらしいんです。すると、非常に感心するんだな、つまり、キリスト教の方では映画でも繰り返し繰り返し山上の説教にしても、大切な言葉を耳にしているわけでしょう。ところが、まだまだ浄土宗の方は、はじめて聞く人が多いんだな。一番大切な言葉をね。誰れでも救われる、とか、念仏さえ唱えればよい、とか、どういう風なかたちで念仏してもよい、とかというのをね。そこで、ショックをうけてだね。というのは、そういう宗教が日本にあったか、という考えがある。だから、一般の町のアンちゃんなんか反感を示さない。むしろ、えらいとは感ずるが、そこところは矛盾を感じないんだ。むしろ、親鸞上人が御結婚な

さるとき何故、あんなに苦しむのか、ということの方が理解できないんでね。法然上人の言葉の方が、親しみがあつたというのは、いまでも、まだまだ説教が足りないんじゃないか。つまり、鎌倉時代に要望されていたことは、やはり、今の人も要望しているんだが、まだ、耳に届いていないんじゃないか、そういうような感じがしました。

そのとき、僕もこのことは活字では読んだけれども、耳に聞えてきたのは、しばらく、とだえていましたから、やっぱりいいと思った。

もう一つは、僕は、法然上人という方が好きなんです。人間的に好きなんです。何故好きかというとね。何か安心して、信頼できる人。たとえば空海ね、弘法大師のような方は非常にデモニッシュな、知的な力があつて、すべてを支配するような力がおありになつたかもしれないが、何んだか近づきたい。けれども、法然上人は、だまってそこに坐っている、何となく、こつちが恐らくその当時生きていたら、顔を見ただけで、しみみりとした気持ちになつたんじゃないかと思うんです。僕のおやじ（大島泰信師）は、好きだつたんですね。好きだけれども云わないんです。云わないけれど、法然、と云つたときに、とても嬉しそうな顔をするんだな……。

佐藤 そうかね、人柄もよく似ておられたからね。

武田 何かね、だけど、自分は勿論、そういう人間でないということは知っていますからね。ただ、憧れみたいにな、こういう人間が居てくれたらいいなあ、というものが、おやじの頭のなかにあつてそれが、法然さんだったらいいですよ。

だから僕もね、自分で、色んなものをごたごたやつて癪癪など起したり、悲観したときなんか、ああいう人がいてくれたということが、とても有難いというか、何か絶望しない

ですむというか、現実には、なかなかないんですよ。まず、御忌に際して、それが、虚言のないところですね。

厳しさを包む人格の円満さ

司会 いま、親鸞という映画のお話がありました。よく、法然上人と親鸞上人が比較される場合、親鸞上人は人間味ゆたかで、ドラマにも、小説にも、なるけれども、法然上人の場合は、あまりにも聖者すぎて、人間的つめたさを感じるともいわれるんですが、その点はいかがでしょうか。

武田 佐藤春夫さんが、法然上人のことは掬水譚のときから、ずーとやって来られてましてね、戦争の一番激しい最中でしたか、念仏という事をいい出したんです。丁度日本が侵略をはじめた直前に、南無阿弥陀仏は、自分が一番いい、といった気持は、やっぱり相当深いものがあつたと思うんです。それが、今まで続いてあつた。

日本には普遍的というものはないですからね。だから浄土教にもそういう役割りもあるんだな。非常に、民衆的な面もあるけれども、だから、必ずしもそうとはいえないんじゃないですかね。

親鸞をもし本当に芸術化しようとすれば、さっきいったような、法然の法縁に参画したというところが、クライマックスなんだな、発端ともいえるでしょうがね。だから、それは長い目でみてみなければ、それをいまず判断することはできないと思います。

佐藤 仁戸田先生ね、法然上人の人格の一面をあらわす言葉にね、ある人が、お酒を飲むべきでしょうか、と尋ねたら、法然上人は「まことに飲むべくもあらねど、世のならい」

と仰言った。これは、なかなかさらつと出て来ないんだね。仏教の戒律とか、とくに持戒堅固であられた法然上人を、我々のような考えからいけば、一寸そこにこたわって、「世のならない」などとさつと流して「飲んでもいいよ、だけどいけない事は、いけないだけども」というように、軽く出ないと思うんです。そこに、何か厳しいものを乗りこえてこられたものを包んだ円満さが、あるじゃないかと思うんです。

仁戸田　ぐつときますね。

佐藤　どんなものでしょう、先生はお酒を召し上がるので……

仁戸田　徒然草のなかにですね、酒飲まぬやつはばかだ、色気のないやつと同じでね。酔っぱらって悪酔いするやつもやつぱりばかだ、ほどほどの酒がいい、ということをさかんにいっていますね。その兼好法師が、法然上人のはなしを、徒然草に引用していますね。御存知だろうと思うんですが。

「お念仏を唱えていて、居ねむりをして知らないうちに眠ちゃった」というんですね。そのことを法然上人に尋ねたら、眠むたくなったら居眠むりして覚めたらお念仏すりゃいいじゃないか、とお答えになった。この話を聞いた兼好法師は、まことに有難い立派なお方だ、と仰言っているんです。

先程のお酒のことについて、佐藤先生の仰言ったとが、やつぱり法然上人をほめている兼好法師のことですから、その辺やつぱりどこか相通ずるね、相寄るたのしさというのですか、これも御仏縁ですよ。（笑）

（つづく）

寺院紀行

御殿場

善龍寺

撮影／夕力才力邦彦

文／真山剛



善龍寺の寺名を刻んだ寺号塔から山門を望む

平成二十四年四月、東日本大震災で一年延期されることとなった浄土宗の宗祖である法然上人の八百年御忌法要が東京・芝の大本山増上寺で厳修される。八百年という区切りだけに例年の法要より長い日程で、十一日間の大行事となる。三大本山の法主による特別な法要、各地域で選ばれた唱導師が法然上人への報恩謝徳の想いを込める法要、それに献茶式、念仏会、追悼会、そして詠唱の奉納と、さまざまな形で法然上人を供養し讃仰する、後世に残る記念法要となる。

その唱導師の中で最初に弘子を振るのが、静岡は御殿場の古刹、善龍寺第四十三世、向山瑞成上人である。

「大震災で一年延びましたが、こうして無事に法要を迎えられることは有り難いことです」

富士山を間近に見上げる応接間で、向山上人は静かに口を開かれた。

それにしても富士山が大きい。

「この寺はもとも富士山の中腹にありましたが、富士山の噴火でいく度か移転を余議なくされてきました。自然災害は人智を超えるものですから、それこそ善龍寺も大きな被害を受けてきています。それでもこうして今日までその法灯が消えることなく続いていきます。」

増上寺を支える浄土宗寺院の多くは関東や東北にあり、東日本



九人の唱導師が並んだ増上寺での教書伝達式。右から順に唱導師を務めるので最初の向山住職が右端となる

大震災の被害を受けている寺院が少なくありませんが、こうして一年遅れでも御忌法要を厳修できることは本当に有り難い限りです」

現在の善龍寺は富士山の中腹ではなく、その裾野である御殿場市中畑にある。創建が千三百年以上前ともいわれる古刹で、平安時代をさらに遡り、仏教も南都六宗の時代という奈良時代になる。天台宗も真言宗もまだ生まれていない頃だ。つまり、修験道の時代、山岳信仰の頃である。それこそ役小角えくかくといった行者が日本の霊峰富士山に祠や祈願所を造っていた頃になる。山岳信仰はやがて仏教とも結びついたので、富士山にはそうした古跡がたくさんあったに違いない。しかし、向山上人の言う通り、活火山である富士山が噴火すれば山腹の祠などひとたまりもなく、一瞬にして溶岩に飲み込まれてしまう。

また、こんなエピソードも残っている。善龍寺と同じ中畑に大子山おおこやまという地名がある。日本に仏教を広めた聖徳太子が富士山を見にきて以来、この場所を大子山と呼ぶようになったという話だ。役小角が日本中飛び回っていたという話はよく聞くが、聖徳太子が飛び回る話は聞いたことがない。しかし、日本の霊峰富士山が信仰の対象となり各種宗教と結びつくのは自然なことで、聖徳太子が飛んではこないだろうが、聖徳太子に関わる何らかの伝播があったことを全く否定することもできない。

須走にある浅間神社。浅間神社は富士山を取り囲むようにあるがその一社だ



また、近年では仏教発祥の地であるインドから御殿場に贈られたものがある。御殿場の観光スポットのひとつ平和公園に聳える真つ白な富士仏舎利塔に納められている仏舎利だ。仏舎利とはお釈迦さまのお骨のことで、故ネール首相から寄贈された。納めてある塔は富士を見上げるように建っていて、「フジヤマ」は海外からみても特別な山、霊峰なのである。

さて、話を戻そう。

善龍寺はこうした修験道の祠から天台宗の寺院となり、浄土宗に改宗して今に至っている。浄土宗になったのは不明だが、開山は念譽真公上人と伝えられ、それ以前は富士山中の八つ沢にあった。火災により堂宇を焼失し、現在地に落ち着いたのが、一七〇八年で現在の本堂はその移転当時のものである。

その本堂に色々な人、そして仏がやってくる。

「当山を参拝すると、富士山に登ったのと同じ功德があるという参拝者がしばしば訪れます。大阪から参拝に来られた方もいる。全国に富士講がたくさん残っていますが、そうした方も多いですね。やはり『富士は日本一の山』なのです」

少し照れくさそうな話し方に人柄が出ている。

本堂の脇陣にこれもいくつもの由来のある仏像が祀られている。本尊に向かって右手の脇陣に安置される釈迦像は昭和4、5年に



御殿場で最も有名なものが、御殿場プレミアムアウトレット。東名高速のすぐ脇が入り口となっている

寄贈されたもので金毘羅さんが乗り移った像と伝えられ、今でも行者が願をかけに足を運び、群馬の神主さんが祝詞をあげにこの釈迦像に参拝する。左手脇陣には阿弥陀如来の座像と立像が並ぶが、座像は戦後すぐの昭和二十三年に楽山荘という別荘から遷座されてきた。楽山荘の主は高楠順次郎という仏教学者であり、インド学の大家で、何十巻にも及ぶ仏教書を刊行しており、インド仏教やサンスクリット語を学ぶ者にとっては先駆者のような存在だという。その別荘の道場に祀られていたが、別荘の建物が解体される時に信者が善龍寺に安置して欲しいと運んできたという。善龍寺には自然とこうした仏像が集まるようである。

さて、ここ御殿場には前述した学者の楽山荘のほかにも別荘がたくさんある。岸信介、池田隼人、黒沢明、秩父宮殿下などなど。というのも御殿場はかつての東海道線の駅があったという立地の良さから、富士を望む高原別荘地なのである。

先代住職の母親の実家から中学生の時にこの善龍寺の養女に入つた向山住職のご内室、きよ夫人が教えてくれた。

「御殿場の夏は涼しいですよ。箱根側が別荘の中心地で、東山地区といえます。俳優で初めて紫綬褒章を受賞した女優の東山千栄子さん、あの方は御殿場の東山で生まれ、出身地の地名を芸名にしたのですよ。また、富士山には自衛隊の演習場があり、日米合同演習も

富士山周辺にはいくつもの自衛隊の演習場や施設がある。看板は須走の陸上自衛隊富士学校を示している



ありますからアメリカ人が多く住んでいて、アメリカ村もあります。ですから、アメリカ流の手造りハムが今でも御殿場では人気なのですよ」

なるほど、これも富士山のお陰。そういえば、バナジウムが含まれているという富士山の水も大人気で関東のコンビニではよく見かける。

さて、向山住職の話に移ろう。向山住職の出身は北海道の久遠郡で、一九九三年の北海道南西沖地震で大きな被害を受けた奥尻島の対岸、太櫓の浄土宗昭光寺に昭和十五年七月に生まれた。子供の頃から学業優秀で、地元の高校時代には中央大学の法科か教育大（現筑波大）で漢文を勉強したいと思っていたという。当時の法科といえば東大より中央、その法科を目標にしていたが、弟が他界したこともあって大正大学に進んで住職となる道を選んだ。

大正大学入学と同時に上京、東京の大きな寺に住みこみ、修行しながら学校へ通う生活に入った。こうした地方の寺の息子さんなどが東京の大きな寺に下宿することを隨身というらしいが、聞けば最近はその近くのマンションなどに住み、寺に通うのが主流で、隨身はほとんどなくなったという。

向山住職は、大正大学時代は尾久の満光寺と品川の願行寺に隨身、同大学院時代には青山の梅窓院にお世話になったという。卒業後、



かつて御殿場にあったアメリカ村。その頃の手造り製法で今もハムを作り続けているニノ岡フーズ

地元北海道の名刹へ入る話などもあったが、大正大学の小沢勇貫教授の世話でこの善龍寺の婿養子となったそうだ。

北海道育ちゆえ寒さには強い住職だが、冬に雪をかぶった富士山から吹き下ろす寒風には震え上がるといふ。富士降ろしにさらされた山門脇の鐘楼の鐘にうっかり素手で触ろうものなら、冷え切った鐘から手が離れなくともあるという。そうした慣れない土地ながら、向山住職なりの仏の種を蒔いてこられてきたが、そのひとつが善友会という青年会だ。檀家である農家の長男を中心にした会で、現在は四十人ほど。各種行事での手伝いなどで善龍寺を支える中心部隊である。また、八月には夏季仏教講座を開講、僧侶はもとより、各種業界のトップリーダーなどを講師として招聘している。

そんな向山住職の人柄を、学生時代の恩師や随分時代の僧侶仲間、そして同じ御殿場の住職などに聞いてみたが、「誠実、実直、前向き、勉強好きでした」とまるで口裏を合わせたように、その真面目な人柄が語られた。何かエピソードは、と結局十人近くの方に聞いたが、答えは変わらなかった。ここでは、向山住職の学生時代の恩師であった阿川文正先生（現大本山善導寺法主）の記憶を活字にさせていただこう。

「向山上人は私が昭和三十六年四月に大正大学の講師に就任した時の学生で、確か青山の梅窓院に随身しながら通学していたと思いま

歴代住職の墓地。檀家の墓地も境内にあるが、檀家の多くの墓は各村落にある。



す。向山上人は人柄が良く勉強熱心でしたね。大寺の手伝いをしながらというのは、色々大変だったと思いますが、真面目な学生でした。近年は布教師会でご活躍と聞き及んでおります」

この話をきよ夫人に伝えると……

「ええ、本当に今でも変わらず真面目ですね。また、本好きで仏教関係の書籍が山積みになっています。でも、それもあってか緑内障になったのですが、今年になって良い先生と巡り合えて大幅に回復しました。これで御忌での心配がひとつ減りました」

それに加えて住職がこう付け加えた。

「そうだね、ただ、表白という読み物が長くてね。それがうまく読めるかが、少し心配なところかな」

ご自分よりもむしろ檀家さんが喜び、楽しみにしているという法然上人八百年御忌法要での唱導師だが、心配と語るそのしつかりした声からは、不安は杞憂に終わるように思える。学生時代は東京で、そして霊峰富士の麓で研鑽を積まれた道産子の向山住職の晴れ舞台が、いま始まるうとしている。

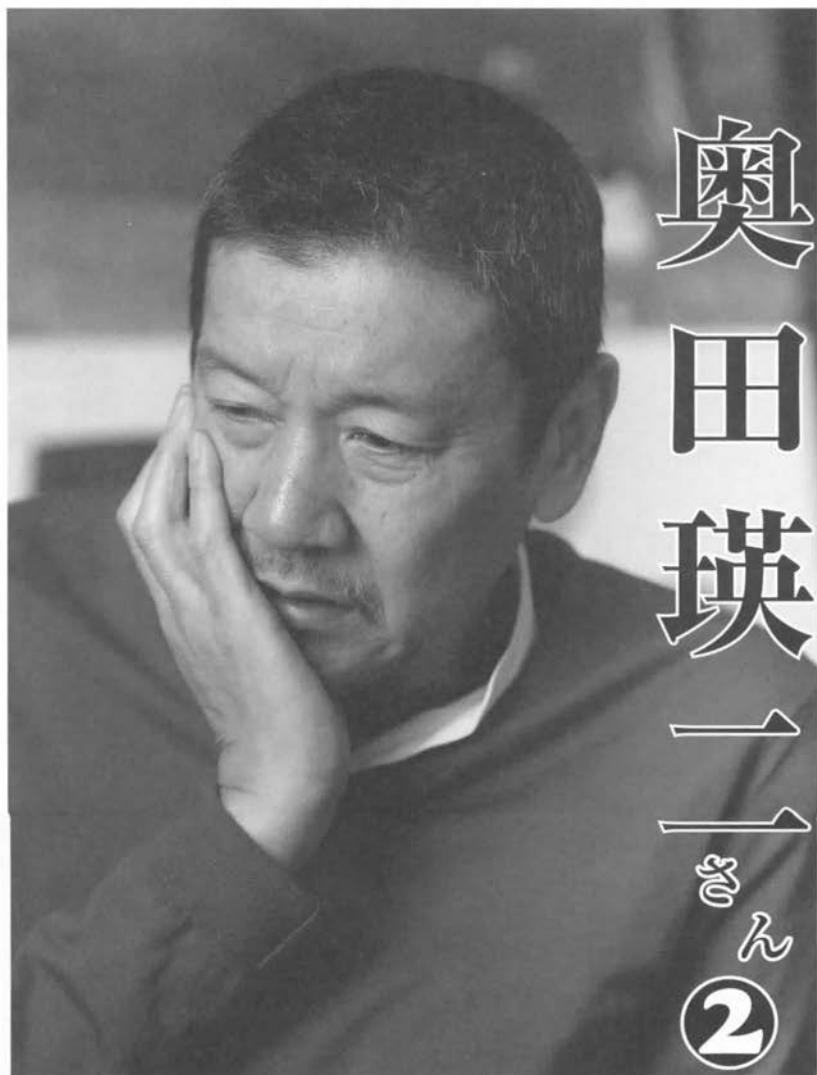
(ルポライター)



善龍寺の末寺但称院の遺跡で、但称院は善龍寺山門の脇に位置していた

連載

会いたい人
関 容子



奥田瑛一
さん
②

撮影／タカオカ邦彦

では、奥田さんが映画のメガフォンを取った話に入る。

第一作は『少女』(01)。かねがね連城三紀彦さんのこの小説の持つ魔性のような魅力に惹かれていて、いつか尊敬する神代辰巳監督で演じたいと思っていたのが、破天荒だが心優しく純粋な警官の役だった。しかし神代監督は'95年に亡くなり、意を決して奥田さんは初の監督・製作・主演に挑む。結果は大当りで、パリ映画祭ほかで二つのグランプリ、少女役の新人、小沢まゆがギリシャ国際映画祭ほかで三つの最優秀主演女優賞を受賞した。

「このごろ話題になっている援助交際じみた、一見破廉恥な中年お巡りと中学生との恋を、世界に共通する真実の愛として撮りたかった。神代監督へのオマージュのつもりで」

当時、奥田さんはそう語っていた。

二作目は『るにん』(06)。絶海の孤島に火つけの罪で流されてきた吉原の花魁と、博打打ちの若い男との命がけの純愛物語。

舞台となった八丈島には作曲家團伊玖磨さんの仕事場があったので、以前私も何度かインタビューでお訪ねしたが、この映画の息を飲むばかりに美しい、こんな自然があったとは少しも知らなかった。

「映画の原案は、その團さんの御子息、團紀彦さんの『流人船』なんですすよ。これは当時の流人たちの実態を調べて記録した資料的要素の強いもので、そこからどんなドラマを紡ぎ出すかを懸命に考えたわけです。あの自然の美しさは、土地の人もほとんど知らないで、びっくりしたそうなんです。僕は山間の、猪が出てくるような田舎で育ちましたから、自然の状況をよく知ってる。車で舗装道路を走っても、側溝があつてそこからチョロチョロとわずかな水が流れてるのを見つけると、ストップ！ この上に溪流があるはずだから、よし行くぞ、って。するとちゃんとけもの道があつて、しばらく行くとほんとに絵にも描けないような、きれいな清流に出



奥田瑛二監督作品『少女』 ©2001 ゼロ・ピクチャーズ



奥田瑛二監督作品『るにん』 ©2004 ゼロ・ピクチャーズ

遭う。小さな青蛙がワァーッといるところとか、午後から水が引くと霧がサァーッと流れるところとか、とんでもないところにあったりする。スタッフは重たいカメラを分解して背負って、登山よろしく入って行って撮影するんです」

それにしても、主演の松坂慶子をこれほど美しく撮り上げた作品をほかに知らない。特に終り近く、裸馬に乗せられて江戸の町を引き廻しにされる場面での満ち足りた顔、斬首に及んだの透明感のある清純な表情は美しかった。

「ええ、最後のあの顔を撮るために、ずうっと撮って行くわけですからね。でも、僕は初め主人公を誰にするか、思い当らなくてね。あるとき京都の元芸妓さんのクラブで一人で飲んでたら、深刻な顔して何考えてはるの？って、ママが。日本にはある年齢に達した美しい女優がいらないんだよね、って言ったら、松坂さんがいやはるやないの、って。よし、

って東京へ帰ってすぐ電話してね。会うなり、お願いがある、って、指を十本立てて見せたら、体重ですか？　ってすぐにわかった（笑）。で、一年かけて十キロ減量してくれて、あんなにきれいになったんです」

映画は下層に生きる人たちの魂の美しさをみごとに謳い上げ、画面の随所に奥田さんらしい美学が見て取れた。俳優としての長いキャリアが、自分が撮るならこうするという方法論をたくさん蓄積させたのだろう。

「相手役、命がけの島拔けに挑む男の西島千博^{ちひろ}は、バレエダンサーです。前に飲み会で会って、素敵な男だなと思って、君で現代劇を撮る、って言うてました。それが流れたんで、男の約束として時代劇だけ出てもらった。彼はバランス感覚抜群だし、身体能力がすごいですからね。切り立つような大岩の上にじっと座って、潮の流れをずうっと見つめてる姿なんか、じつに絵になつてたでしよう」

奥田さんも汚れ役でちよっと登場する。

「悪徳商人で島に流されてきたわけだけど、島で相当数の流人の親分になっていて、妾を持ったりする。この役に僕が最初考えてた俳優だと、多分注文つけるだろうし、出演料も高額だし、それなら自分でやるか（笑）、となつて、すると出演料はただだから、その分制作費に回せるし。短期間で、低予算で、いい物作る、というのは日本人の得意技ですからね」

この作品も海外で高く評価され、アメリカ西海岸の映画祭でグランプリ。主演男優賞、女優賞も獲ち得ている。

三作目は『長い散歩』（06）。08年10月に亡くなった緒形拳の最後の映画出演だった。

「緒形さんとはコーヒーのCM撮影で千葉の山奥へ御一緒して、なんで日本ではこういう名優の主演でいい作品を撮らないのか、と思つてね。アメリカならクリント・イーストウッドとかジーン・ハックマンとかアンソニ

ー・ホプキンスとか、そういう名優たちがどんなに年取つても主演している。帰りの車の中で一人でずうつと緒方さんを思い描きながらストーリーを考えて、よし、老人のハードボイルド、これだ、と決めた。この老人は家庭崩壊して、妻や娘に軽蔑されて一人暮らし。彼は残りの人生にどうやって立向うのか。するとたまたま同じアパートで親から虐待を受けてる少女を救おうとする。しかしそれが誘拐という汚名を着せられる。この苛酷な試練を乗り越えてこそ、いずれ死を迎える前に新しい世界に突入して行ける……。そう考えがまとまると、緒方さんに電話です。ほかの俳優で撮る気持はまったくないの、断わられたらどうしようかとドキドキでした（笑）」

緒形さんの快諾を得て撮影がスタートしたが、三日目にして問題に突き当たる。

「一本目の『少女』のときは恐いもの知らず、『るにん』は行け行けでしたけど、三作目になると映画を作る怖さがちょうど身につき始

めたところで、すごい怖かった。だいたい大物の名優さんをお願いすると、好き勝手に芝居されて、最高でした、で終っちゃう。でも、もっと名優になつていただきたいですからね。三日目のこと。ここはこうしてください、って言ったら、俺にはそれ腑に落ちてこないんだよ。そうですか？ 僕には落ちてますよ。いや、あんたにはでしょ？ って。参ったなあと思つてると、わかった、監督、やつて見せてくれ、と言われてムカーッとしましたけどね、奥田瑛二百バーセントで演じて見せましたよ」

そのシーンとは、老人がコンビニの弁当を部屋で食べようとすると、隣室の少女のキーツという叫び声が聞こえる。パツと立ち上がって、ドアを開けて外へ出る……。奥田さんが緒形拳に見せた通りに実演してくれる。

「つまり、こういうふうに余計な芝居を何もせずにやっただけです。子供の叫び声が聞こえたら反射的に箸を置いて、パツと立って壁の

ほうへ行つて、外へ出て行く。それが緒形拳の顔で映ればもう百点なんです。細かい演技をやられると、映画のスクリーンはでかいですからね、芝居くさくさな結果がよくない。それを宮本武蔵と柳生石舟斎の例まで持ち出してね。縁側に素手で立つてる老石舟斎の姿を見て、殺しに來た武蔵が怖れをなして退散する、という話。緒形さんはわかつてくれて、それからもう蜜月ですよ（笑）。休憩時間もニコニコして常に一緒でしたから」

クライマックスは緒形拳の号泣シーン。

「緒形さん演じる安田松太郎老人が、少女との長い散歩の果に、金も無くなるし、もうどうしようもなくなつて、駅前で大泣きに泣くシーン。あれは庄巻でしたね。東尾張駅なんでもちろん架空の駅ですよ。名古屋近在の町の人三、四百人の協力を得て、群集の動きを一日中訓練してもらつて、翌朝五時くらいまでにぶつつけで撮らなきゃいけないというんで、もう胃がキリキリしましたね。緒形さん



もやり甲斐があつたと思います。思い切り泣いてくれました」

いよいよ完成試写の日がやってきた。

「試写室で離れて座って、あんなにダメ出しでガタガタ抜かしたくせに、俺をこんなふう撮りやがって、なんて言われたらどうしよう、と思つてね。終つてふつと見たら、緒形さん居ないんですよ。素晴らしい、つて皆が握手求めてくるのに、居ない！ それで廊下へ出たら、向うからタッタツと歩いてきて、俺に抱きつくわけですよ。いやあ、泣いちゃ

つてさ、ちよつとトイレで泣いてきた、つて。それを思い出すと、また泣けるけど」

監督冥利、男冥利につきるだろう。

緒形拳が亡くなったとき、テレビで多くの映像が流れたが、「僕は近ごろになつて、何もしないでいられるところによく到達したようだ」としみじみ語っていた。今思えば非常に納得が行く。

「緒形さんの最後のテレビ出演は、倉本聰さんの『風のガーデン』でした。僕との共演シーンはないんだけど、北海道のロケ地に僕が来るのをずっと楽しみに待ってて、おい、今日は何やつてる？ いや僕は明日からですから。じゃあ蕎麦食いに行こう、つて、車で林の中の蕎麦屋へ二人で行つて、僕は焼鳥とビール、緒形さんはざる蕎麦を食べて、嬉しそうだね。大好きな監督がやつと来た、つて感じかな。東京に帰つて打上げがあつて、緒形さんも出席したけど夜の十時ごろになつて、どうも、つて僕に目礼して帰つたんです。車

まで送りたかつたけど、中井貴一さんがスツと立つて行つたんで、テレビでは父子の役だったから二人にしろといてあげようという気持があつて、僕は追いかけなかった。そうしたらその三日後に亡くなったという電話があつて、えーつ、つてもう泣きながらお寺へ行きましたけどね」

奥田さんと緒形拳を固い絆で結んだ映画『長い散歩』は、またも海外で高く評価され、モントリオール世界映画祭グランプリ、国際批評家連盟賞、エキュメニック賞の三冠受賞となる。

「帰国子女の役をオーディションで採った松田翔太君も、このごろ大活躍だし、あの映画は僕にとつて大事な作品になつてます」

(つづく)

5月31日(木)～6月17日(日) 新国立中劇場
『サロメ』オスカ・ワイルド作 平野啓一郎訳
宮本亜門演出にヘデロ王役で出演

露の身は　ここかしこにて　消ゆるとも
心は同じ　花の台ぞ

（法然上人）

（朝露のように儚いこの私の今生の命は、老少不定、いづどこで息絶えることになるかは分かりませんが、あなたの心と私の心は、必ずや阿弥陀さまのお浄土の蓮の花の台で再会いたしましょう。）

琴線にふれる―手帳大賞受賞作を通じて―

昨年末、手帳・カレンダーの大手・高橋書店が「第一五回・手帳大賞 身近な人の名言・格言部門」を全国紙を通じて発表しました。受賞作はどれも私達の琴線にふれる素敵な作品ばかりで、投稿者の思いに「なるほどなあ」と共感しつつ、あらためて阿弥陀さまの救いの尊さを感じることもできました。

☆大賞 時間ってあんがい、柔らかいものよ。【櫻井郁子さん・三五歳 私と弟を育てるために、昼は工場勤務、夜はファミリーレストランでバイト。まさに寝る間も惜しんで働きつづけた母も還暦を迎え、今は平穏な日々をすごしています。あの忙しい中、ご飯も手作りだったし、旅行にも連れて行ってくれたし、八つ当たりされた記憶もない……。いったいどうやって時間をやりくりしていたの?と、たずねたときの一言です。】

なるほど、誰しも人は柔らかいおだやかな時間を過ごしたいと願っています。仏教でも、諸行無常・諸法無我あるいは空の心を学びなさいなどと説かれます。とはいえ、頭ではそれらを理解できても、心底では納得できないお互いです。このお母さんが、忙しい中にも柔らかい時間を過ごせたのは、何と言っても、愛しい二人のお子さんを思いながらの日々だったからでしょう。法然上人の教えで言えば、阿弥陀さまやお浄土に先立たれた方々への思いを抱きつつ、お念仏を称える日々を送ることこそ、柔らかい時間を過ごす肝要となりましょう。

☆泉麻人賞 子連れの熊がこわいのを、子供ができて初めて理解した。【中田諭志さん・四九歳 子育て真っ最中だった頃の嫁さんの言葉です。歩行者が肩にかけているバッグの角、坂道を猛スピードで下る自転車、不意に近づいてくる酔っぱらい。子供を抱いて歩いていると、それらはわが子に危害を及ぼすかもしれないものだと思いついたそうです。今でも必要とあれば一瞬もひるまず、身を挺してわが子を守るその姿は、最高に優しく、最高に狂暴です。】

親心、とりわけ母性愛ほど強固なものはないでしょう。私自身も、二人の子育ての中で、最高に優しく、狂暴な家内の姿を、何度も目の当たりにし、「女は弱し、されど母は強し」という名言を実感してきました（昨今は「女は強し、されど母はもつと強し」と言い換える必要がありますが……）。法然上人は、お念仏を称えて日々を送る私達を多くの仏・菩薩が幾重にも取り囲み、さまざまに悪しき誘惑から、最高に優しく、最高に強く守って下さるとお示しです。

☆椎名誠賞 ばっちゃん、今日はいっぱい死んでるな。【東尾緯子さん・六七歳 「ばっちゃん、人間が死んだらどうなるの？」「おほしさまになるのよ」田舎の夜空を見上げて……】

ばっちゃんとお孫さん（？）の当意即妙なやりとりは実にほのぼのとしてい

ます。とはいえ、人は誰しも愛しい大切な方との死別に遭遇し、この上ない悲しみが私達を覆います。この先、ばっちゃんが旅立った時、きっとこのお子さんは満天の星を見上げて、ばっちゃんの笑顔と優しさに感謝の誠を捧げることでしょう。だからこそ阿弥陀さまは、私達を襲う死別の悲しみをよくご存じで、お念仏を称えてわが浄土に必ず往生するようにとお誓いになられたのです。

☆黛まどか賞 「ただいま」と言ったところに、お母さんはいてくれる。

【寺岡祐輔さん・七〇歳 いくつになっても母親というのはそういう存在です。私は末期のがん患者ですが、向こうに行っても亡き母がいてくれると思うと心が安らぎます。】

人は誰しも、かけがえのない大切な方との心と心のふれあいを決して失いたくはありません。それがたとえ今生の別れであっても、いつかきつと再会したいと願わずにはいられないお互いです。末期がんを患った寺岡さんも、亡きお母さまとの再会の確信が自身の死を乗り越える大きな支えとなっているのです。冒頭の法然上人の和歌は、かけがえのない大切な方との再会が叶う阿弥陀さまのお浄土のありがたさを私達にやさしく語りかけて下さるのです。合掌

（林田康順）

小説 快僧渡辺海旭

壺中に月を求めて

前田和男

第三十回

第二部

来江の古城遥かなり

救貧社会実験との出会い



現下の救貧問題は 宗教では救えない!?

ストラスブルクへ戻った海旭は、ベルリンの貧民街で大いに刺戟を受けた救貧問題について、知見を深めるために、さっそく議論仲間を誘って、大学近くの行きつけの居酒屋で飲み会を主催した。

海旭が概略を報告すると、まず反応したのは社会民主党員だった。

「ワタナベ、きみにとって、『赤いベルリン』は、さぞやシヨックだったことだろう。なるほど仏教にとって何ができるかは宗教家としてもっともな自問だが、現下の救貧問題は、残念ながら、仏教はもちろん、カトリックにもプロテスタントにも、いやどんな宗教にも解決不能であることを、わがドイツの歴史は、教えている」

「それはいいすぎではないか」とカトリック刷新派は語気をつよめた。「赤いベルリン問

題は社会主義も解決できていないではないか」「そもそも過去何百年にもわたって、困窮した人々に分け隔てなく慈悲をほどこしてきたのは、キリスト者たちだ」とプロテスタントが援護射撃をした。「社会主義者がやってきたことは困った仲間だけを助けることではないか」

「それは否定はしない。否定はしないが」と今度は自由思想団が社会民主党員の援護射撃を買ってでた。「君たちの役割はもはや補助的・補完的でしかないと、わが社会主義の友はいいたいのだ」

のつけからの甲論乙駁の応酬にあっけにとられる海旭を尻目に、自由思想団の援護を社会民主党員が引き継いだ。「なぜ宗教がだめなのか、いままさにストラスブルクで起きている救貧制度の見直しを見れば、それは明らかだ」

社会民主党員は、事情がよく飲み込めていなさそうな海旭のために、説明をはじめた。

それはこんな概要だった。

灯台下暗し

ストラスブルクの画期的救貧対策

ビスマルクを「鉄血宰相」に戴いたドイツ帝国では、「貧民扶助の義務に関する法律」が定められており、貧窮者について彼等が居住する自治体にその救済が義務づけられている。いっぽうドイツは産業革命の真っ只中にあり、都市には農民が労働者となって流入、そこへ飢饉と不況がおそって大量の失業者と貧窮者を生んでいた。ストラスブルクと同じアルザス地方にある都市、エルバーフェルトは、この救貧対策の負担増に苦しんで、五十年ほど前の一八五二年に改革に乗り出した。

まずは貧民救済資金を一元的に管理し、給付額を算定、実施状況を監督する専門行政部署を市役所に設置。そして、市内を十箇所にわけて、各街区ごとに無給の「救貧委員」を市民から募って配置。救貧委員は援助申請を

した貧民の家を定期的に巡回して実態を把握。生活状況から援助内容を地区の救済委員会に提案。決定された救済措置を、救貧委員が直接当該の貧窮者に手渡すいっぽうで、援助がかえって飲酒や怠惰を生んで社会復帰ができないことがないように個別に「道徳的感化」を行うというものである。

これにより「乱給」が抑えられ、また「道徳的感化指導」によって仕事に復帰する困窮者が増えたこともあって、エルバーフェルト市は貧民救済対策費の抑制に成功。この奏効をうけて、ドイツ各地でエルバーフェルト方式を真似る自治体が相次ぎ、ストラスブルクもこれを採用したのだという。

「ちよつと待った」とカトリック刷新派が割って入った。「それこそキリスト教精神、『愛の実践』の活用だ。現下の救貧問題に宗教は解決不能と言ったのと矛盾するではないか」「まあまあ、そつちこそちよつと待て。これからそれを説明するから……」

そう社会民主党員はカトリック刷新派を押し止めると、説明をつづけた。

ここ十年ほど前からだが、エルバーフェルト方式がだんだん機能しなくなってきたというのだ。理由はますます産業革命による工業社会化が進行、その影の部分として予想以上に失業者と困窮者も増えたにもかかわらず、救貧委員の増員はままならず対応不能となつたからだ。増員対応ができなかったのは、救貧委員が無給の名譽職のため、なり手がなかないからでもあった。

そこで、ストラスブルク市では、有給の貧窮対策担当の専門職員を新たに配置、彼らに申請から審査・支給決定までの実務作業をまかせることにし、従来の無給の救貧委員には、受給家族を定期的に訪問して生活状況を把握し、生活の改善と社会復帰の「感化指導」に専念してもらうことにしたのである。これによって、市の職員の人件費は増えたものの、救貧対策費の乱費の削減・抑制を補って余り

ある効果を生んで、いまや救貧対策費の急増に悩むドイツ各地の自治体の注目を集めているという。

ここまで海旭は議論に口を差し挟まず、じつくりと説明を聞いていて、つくづく自らの不明を恥じた。「灯台下暗し」とはこのことだった。宗教家にとって最重要関心事の一つである「救貧」をめぐる、こんなにも近いところで、こんなにも深い事象が進んでいたとは……

すべて海旭にとっては新知識ばかりだった。さすがドイツは世界の先進国、一等国だけあってすごい。少なくとも「救貧」に関しては、日本も目標にすべきだと感じ入っているとこそへ、社会民主党員が「実はこれができたのも、わが社民党推薦の市長が生まれたからだ」と誇らしげに説明を加えた。

社会民主党員の説明によると、ストラスブルクでは一八九〇年にエルバーフェルト方式が導入されたが、さっぱり効果が上がらな

った。それをもっとも実感していたのは、コ
ルマール市から助役に引き抜かれたルドルフ・
シュヴァインダーだった。今回の市長選挙で、
社会民主党と民主党がこの助役を推薦、彼が
市長に選ばれたことではじめられたのが、今
回の救貧制度の抜本的改革であった。

ちょうどこの時期は、ビスマルクの退陣に
ともなつて、台頭する社会主義者たちを取り
込むためにさまざまな「労働者保護政策」が
内政面ではとられつつあった。たとえば、疾
病保険の適用を十三週から二十三週に延長、
十二歳以下の少年の労働禁止を家内工業にも
適用、労働者アパート建築への助成などであ
る。そんな政治状況を背景にストラスブルク
の救貧制度改革もあつたのである。

貧困は個人の

怠惰や不道德によるもの？

社会民主党員の講釈がひと段落したところ
で、ここまでじっと耳を傾けていたキリスト

者二人が顔を見合わせると、片割れがこう問
い返した。

「なるほど、ストラスブルク方式は私も評価
したい。しかし、先ほど来、きみは、救貧活
動に対するキリスト者の役割はもはや補助的・
補完的でしかないといっているが、どうして
も納得できない……今回のストラスブルクの
新制度でも、救貧委員は無償の愛の実践をして
いるではないか」

「それについては無神論者の私が答えよう」
と自由思想団が引き取った。「いいかね、こ
れまでのエルバーフェルト方式の主役は無給
の名誉職の救貧委員で、まさにきみたちキリ
スト教の愛の実践に依拠していた。そもそも
エルバーフェルト方式は、貧困は個人の怠惰
や不道德によるものというプロテスタント的
貧困観に立っている。だから救貧委員の『感
化指導』によって市民社会へ復帰させること
を施策の根本にしていた。しかし、事の本質
は、それが機能不全に陥ったことにある。い

まここストラスブルクで進められているのは、貧困は社会的な原因によるものだからお上が責任をもって個人の生存を保障する義務があるという方向へ大転換をしたことだ。これは画期的なことだ。もはや無給の名譽職の『愛の実践』は補助役でしかない、それだけに頼るのはもはや時代遅れだ。そのへんを宗教家も自覚すべき時がきたのだ」

もはや宗教は時代遅れなのか、宗教は社会の役にはたたないのか、と海旭は内心でつぶやいて、しばし沈思した。しかし、海旭の黙考は、社会民主党員の唐突な質問によって、すぐに破られた。「ところで、日本の救貧制度はどうなっているのだ、ワタナベ」

不意をつかれた海旭は、ビールを一口飲んで一拍入れてから応じた。「たしか、いまから三十年ほど前、明治の新政府ができて数年したころ、救貧法が施行された」と聞いているが……」

「ほう、三十年も前とは、それは立派なもの

だ。で、その中味は？」と社会民主党員に説明を求められて、即座に詳細を語ることできず、海旭はまたまた不明を恥じた。

思案をめぐらせながら、留学生の溜まり場となっている居酒屋なので、だれか法律に詳しい日本人留学生がいらないものかと視線を泳がせた。と、最近、官費でやってきた東京帝大法科出の官吏が一人で夕食をとっていた。明治十一年（一八七八）に、日本の生理学の草分けで本邦初の医学博士となる大沢謙二を皮切りに、これまでに七十人を超える日本人がこの地に学んでいたが、東京帝大法科学長の穂積八束をはじめ富谷錐太郎、高木豊三、井上蜜など法律系もけっこう多かった。海旭は将来の利器を手招きして呼び寄せると、恥を忍んで日本の救貧施策について尋ねてみた。さすが法律の専門家だけあって、たちどころに答えてくれた。

（この項つづく）

法然上人を
めぐる人々

極樂に
歸つた
法然上人

挿画・佐野芳朗

石丸晶子

第一回

南無



真心からの念仏による、万民平等の救済を説いた法然上人の法灯は以来八百数十年、人々の心を照らし続けてきた。

知友から聞いた話である。彼女の父上は、日々の多忙のなかで宗教とは無縁な生活を送っていた。

八十歳で会社を退職し、末期がんに罹っていることが分かったのはそうし中であつた。見舞いに来る多くの人がそれぞれの宗教を勧めた。名前を聞いたこともない新興宗教に入れば病氣全快間違いなしといって、いくつかの実例を話していく見舞い客もあれば、八百万の神の話をしていく人、キリスト教入信をしきりに誘う人もあつた。あの神様、この神様と、見舞い客たちは「靈驗新たかな神々」の話をしては帰っていった。

そんな中で彼女の父上は「この宇宙の真理、

世界の真理とは何か」という人生の大問題に初めて、真剣に直面したようである。

周りの人々からあの宗教、この宗教と勧められても父上は「ではこの宗教に入信する」といわなかったそうだが、亡くなったとき枕の下から二枚の薬包紙に鉛筆で書かれた歌が出てきた。亡くなる二、三日前に書かれたものらしく、震えに震える字でやつと判読された薬包紙にはこう記されていた。

み位の 高きにまします 神々に 祈らせ給うや この身病む俣 あわれこの身の 世界の道は

なむあみだぶつ なむあみだぶつの お六字は 父にも母にも 継り給える六字にあらずや

この話をして彼女は言った。「父は結局なむあみだぶつの世界に帰っていったのね」

彼女の家は代々大きな農家であったというのが、農家としてその時その時の天候に苦勞し、家族や近隣の人々の生活を守り、さまざま苦勞の中で「なむあみだぶつ」に頼って幾世紀を過ごしてきたのであろう。そして彼女の父上は、父祖のその信仰世界に帰っていったのであった。

否、それはなにも彼女の父上だけではない。多くの日本人が幾百年、幾世紀にわたって法然上人によって生きる支えを与えられ、人生に希望を持って生きてきたのである。

ではその法然上人とはいかなる御方であったのか。

法然上人がお生まれになったのは長承二年（1133）。浄土に還られたのは建暦二年（1212）一月二十五日。八十歳のご生涯であった。

父は美作国の押領使漆間時国。おのりょうしうるまときくに母は秦氏の出であった。

ここで押領使について述べておくと、当時、

凶党（武装蜂起）の追捕機関としてその国の国司が国内の有力武士を推挙し、官符で任命された者を言う。今の言葉で言うとその県全体の警察官の長であり、一旦武装蜂起（凶党）が発生すると国司は太政官に報告して追捕官符を受け、それを請けて押領使は国内武士を動員し凶党集団を追捕するのである。

二

保延七年（1141）、初夏の一日も暮れようとしていた。

「勢至丸」

館に戻ってきた一子勢至丸に時国は呼びかけた。

「そなたの額には汗が浮いているぞ。何をして遊んでいた」

「はい。昼までは学問をしておりましたが、昼からは太郎助や三郎などと相撲を取っておりました。それから弓の稽古も。弓は面白う

「ございます」

「ふむ」うなずいた時国に勢至丸は

「太郎助や三郎だけではありませぬ。稲岡庄近隣の子どもたちにも弓の稽古をつけておりました」

「近隣の子どもたちと仲良う遊ぶことは大切なことだ。やがてわしの跡を継ぐには、近隣の者たちの心をわきまえて置かぬと押領使の務めは勤まるものではないからな」

「はい。私も父上のように立派な押領使になつて朝廷にお仕えしたいと存じます」

「そうだ。この稲岡庄を立派に治めることが、ひいては帝にお尽くしすることなのだ」

しかし、そういいながら時国の顔が曇った。実はこの日頃、時国には心にかかる心配事があつたのである。

稲岡庄の本所ほんじよ（持ち主）は京都の貴族であつたが、京にいる彼（本所）が直接美作国まで下つて治めることは出来ないから、かわりに家臣の明石定明なる者を預かり所として遣

わし、稲岡庄を治めさせていたのである。

時国はかねて定明の横暴に胸を痛めていた。地元の事情を知らず、何かといえは都の風を吹かせて命令に従わぬ地元の者に暴力を振るう。

生まれたときから稲岡庄に育つて地元の民情を知り尽くしている時国とは、いつしか犬猿の仲になつていた。

横柄で都から下向したことをいいことに、何につけ地元の者を侮り、ために定明の郎党と地元の間では暴力沙汰や紛糾が絶えない。

古代律令制国家が解体に向かいつつある時代であつた。閉塞し、混乱した社会各地の荘園では、稲岡庄だけでなく、あちこちで殺人事件も起きていた。

今日という今日も、定明の郎党たちが地元の民に暴力を振るい数人の地元民が瀕死の重傷を負つたことを糾とがすために、預かり所を訪れた時国に定明は、

「お前ら田舎者は、都の者の言うことに黙つ



てしたがっておればいい。ふん、都を見たこともないくせにッ。田舎者が都の者に生意氣いな。お前らの一人や二人殺されたとして、それがどうだというのだ」

と追いつ返しにかかったのである。

毎度のことながら、この日はさすがの時国も黙って引き下がれず、ひと悶着もんちやくおこしたのであった。

「父上。お顔色がすぐれませぬ。何かご心配ごとでも」

手巾で汗をぬぐいながら勢至丸は訊ねた。

「いや、そなたが心配することではない。そなたは勢至丸の名に恥じず、学問に励み、民の心を心として父の跡を継ぐよう心せよ」
勢至丸をじっと見つめて時国は言った。

三

事件が起きたのはその夜であった。

父の居間近く眠っていた九歳の勢至丸は、

「殿、大変でございます。暴徒が夜討ちを仕掛けてまいりました。定明の一味と思われるです。」

という時国家ときくにけの郎党たちのただならぬ叫び声に目が覚めた。

ハッとして部屋の外に目をやると、火の手が上がり、人々の罵り騒ぐ声が入り乱れて聞こえてくる。

「殿ッ。殿ッ。定明の郎党どもの夜討ちにございます」

時国に叫びつづけるその声とともに、手に手に武器をもった明石一味が屋敷になだれ込んできた。

かねて時国屋敷の間取りを調べ、どこが主の寝所かの調べもついていた定明一味は、真つ先に時国の寝所めがけて夜討ちしてきたのであった。

「父上ッ」

ハッと思うより早く、勢至丸は枕元の弓矢を取って父の部屋に駆けつけた。

「あッ」

少年は絶句した。今しも定明の剣が布団から起き上がった時国を切りつけているではないか。

屏風の陰から勢至丸は思い切り定明目がけて矢を放った。

矢はたしかに定明の額に当たり、額からは血が滲みはじめた。が、九歳の子どもの弓矢の力は、額から血を出させただけで定明を倒すには至らない。

定明は屏風の陰にいる勢至丸を睨み付けたが、なおも時国一人を相手に刺しつづけようとする。

勢至丸は二本目の矢を射った。

定明の眉間にしっかりあたった二本目の矢のために、血が吹き出て目に入り、定明にはあたりの様子が見えなくなった。

彼はなおも剣を処かまわず振り回し刺し貫いていたが、やがて罵りわめきながら屋敷の外に逃げていった。

周囲は血の海であった。

時国、定明、双方の郎党たちの血に染まった死体が屋敷のあちこちに転がっている。

生き残った郎党たちが屋敷にかけられた火を必死で消し止めようとしていた。

遠く近く、女性や子どもたちの泣き騒ぐ声が風に乗って聞こえてくる。

勢至丸は布団の傍ら、血の海の中に倒れ伏している父に駆け寄った。

「父上、しっかりなされませ。この仇は必ずわたくしが取ります。今すぐ定明のもとに押しかけてその首を取って御覧に入れます」

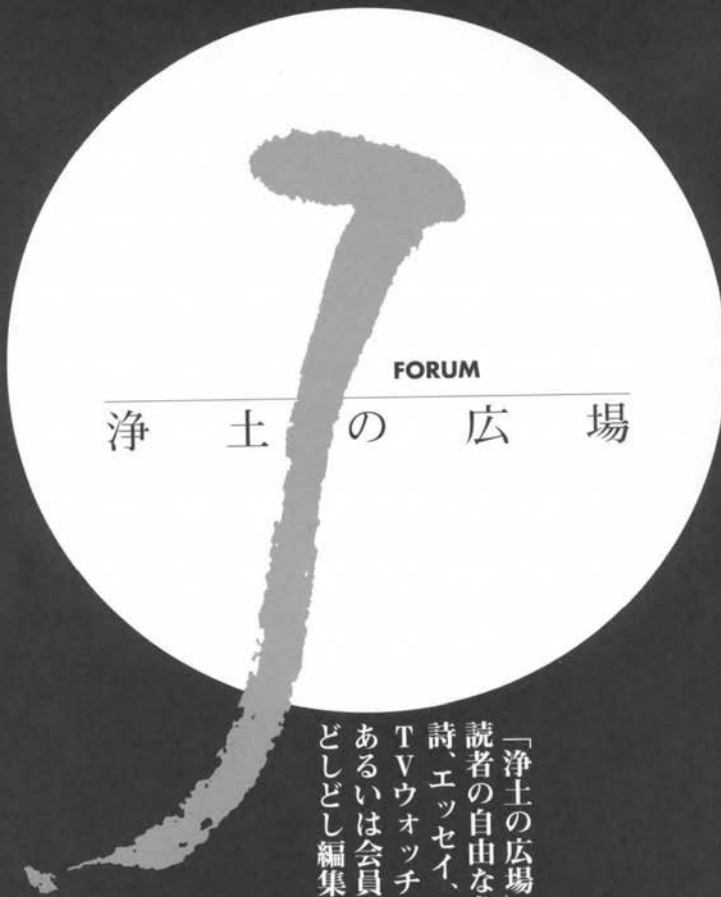
勢至丸は泣きながら父を揺さぶり、口説き続けた。

「必ず、必ず、定明に復讐いたします。父上、しっかりしてくださいませ。ご安心くださいませ、父上」

号泣しつつ勢至丸は叫んだ

九歳の少年に、それはあまりに惨い光景であった。

(つづく)



FORUM

浄土の広場

「浄土の広場」では

読者の自由な参加をお待ちしています。

詩、エッセイ、短歌、俳句、川柳、書評、映画評、

TVウオッチング、紀行文、その他創作等。

あるいは会員各寺院での催しの告知、報告など。
どしどし編集部にお寄せ下さい。

浄土誌上句会

●願

〔特選〕
耳打ちは願い事らし春着の娘

大西 明子

新しい年を迎えた。若い女性の着物は、その喜びを象徴するように晴れがましいものである。耳打ちの相手は母親か、あるいは友達なのか。その相手も内緒の中身も、全て読み手の勝手な想像に任されているのだ。

〔佳作〕 願書だけ急ぎ集めて寝正月

脇田 優香

願ってもない雪晴靴の紐が切れ

濱野 具円

冬虹に願いはひとつ母のこと

増田 信子

●国

〔特選〕
冬のある国に生まれて日向ぼこ

工藤 掉

大陸から離れて、西南から北東へ長く伸びた日本列島は、桜が咲き紅葉が色つき、太陽は炎え雪が舞う、四季の変化に富んだ国であ

る。日向ぼっこをしながら、そのことをしみじみ思う。「冬のある国」が生きている。

〈佳作〉

被災地の国訛り聴く年初め

佐藤 雅子

傀儡師や民なき国の王のごと

三宅 正吉

屠蘇に酔い国家を語る老漁師

浜口 佳春

●自由題

〈特選〉

積ん読の増えるばかりや去年今年 二丁田美恵

買ってきた本を、時を措かずに読むということがどれだけあるだろう。どうしても積ん読が増えてくる。作者は年の内に読んでおこうと思いつながら、ずるずる溜まってきたのである。正月中に少しは片付くのだろうか。

〈佳作〉

初風や芒屋の屋根に湯気立ちて

森 弘三

冬ミウらら地に顎あずけ犬眠る

山口 信子

死ぬ順に並ぶ顔ぶれ日向ぼこ

池田 伊吹

誌上句会 〈編集部選〉

■願

願掛けの鐘の音満つる淑気かな
初詣絵馬に絆の文字多し
口笛は「星に願いを」懐手
賽銭をカーブで投げて願いい事
願い事十円なりや初詣
退職願の書き方海鼠の捌き方
東西の本願寺へと初詣
燈をでこぼこ灯し本願寺
願掛けに日を費やして冬銀河
大願成就したときは花の下

佐藤雅子
森弘三
笠井亜子
井口 栞
工藤 掉
斉田 仁
山口東人
目黒 裕
澤山子青
小林苑を

■国

雪の汽車お国訛がすれちがい
元日の国旗はためく初御空
夢みてる浄仏国めざす我れ
国宝の大きき広さ寒さかな
国境は炬燵の上に引かれけり
寄せ鍋や国らしきもの湯気の中
ふくろうの国に立ち寄る眠りかな
それはあの国防色の古暦
国なまり乗せて夜をゆく暖房車
松飾り狭き家並の旧国道

森弘三
佐藤雅子
飯島英徳
植田規夫
鈴木伊予
澤山子青
笠井亜子
小林苑を
寺下忠至
大西明子

■自由題

松過ぎて福の神くる赤児くる
爽やかに法然上人信じけり
柚子とるに背伸びしている下駄の上
黒豆の艶が自慢の祖母でした
電線に鳩の膨らむ淑気かな
回想の湯船に在りて除夜の鐘
冬晴れやまだ純白のダイアリー
火事遠し黒人コーラス甲高し
見よ昼の海見よ昼の初鵲

佐藤雅子
大澤隆子
工藤 掉
金井 横
井口 栞
小林暢夫
鈴木真理子
笠井亜子
内藤隼人

浄土誌上句会のお知らせ

兼題

水温む
鳥雲に
自由題

締切・二〇二二年四月二十日
発表・「浄土」二〇二二年六月号
選者・増田河郎子（「南風」主宰）
応募方法

●いずれの題とも数の制限はありません。
●特選各1名・佳作各3名

葉書に俳句（何句でも可）と、住所・氏名を必ずお書き下さい。
宛先

〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館内
月刊「浄土」誌上句会係

さっちゃんはネッ

かまち♡ひろう



かまちひろう先生作新聞四コマ漫画「ゴンちゃん」が各地方新聞に掲載されています。(静岡新聞・山梨日々新聞・北日本新聞・福島民報・宮崎日々新聞・新日本海新聞・山形新聞・長崎新聞・岐阜新聞・以上朝刊・中国新聞・神戸新聞、以上夕刊)



あてやかな僧侶の列よ御忌の庭 岱潤

いよいよ増上寺はじめ、京都の各本山でも今月待ちに待った八〇〇年御忌が行われる。あの大震災の影響で一年間の延期となり、様々な苦勞をされた方々も多いことだろう。致し方ないこととはいえ、やっと来たという心境だろうか。

一月からNHKの大河で『平清盛』が始まった。法然上人と十五歳しか年の差のない同時代の人である。法然上人の生きた時代がどういう時代だったのかを知る上で、とても興味深く見ることができ、これからは益々楽しみである。合わせて鴨長明の『方丈記』を読み直すと、法然

上人が京都においてきてからの政治の乱れ、大火事、竜巻、そして大飢饉、大地震と正に壇ノ浦の年まで大変な時代だったことがわかる。現代でも近々関東、東京を中心に直下型の大地震が来るという噂が広まり、人々の間に不安感が募っている。ドラマのバックに流れる快樂的なと言ふよりむしろ利那的な今様「遊びをせんとや生まれけむ たわむれせんとや生まれけむ」が、その場しかなかった当時の人々の心境を表しているが、今の私たちも原発事故という最悪の状況まで背負い、正に明日の見えないなかで、法然上人の時代の人々と、心は余り変わらなようにさえ思えてきた。

雑誌『浄土』
特別、維持、賛助会員の方々

飯田実雄(駒ヶ根・安楽寺)
巖谷勝正(目黒・祐天寺)
魚尾孝久(三島・願成寺)
大江田博導(仙台・西方寺)
北山大超(焼津・光心寺)
加藤亮哉(五反田・専修寺)
熊谷靖彦(佐賀・本應寺)
糸原恒久(川越・蓮馨寺)
佐藤孝雄(鎌倉・高德院)
佐藤成順(品川・願行寺)
佐藤良純(小石川・光圓寺)
東海林良雲(塩釜・雲上寺)
須藤隆仙(函館・称名寺)
高口恭行(大阪・一心寺)
田中光成(町田・養運寺)
中島真成(青山・梅窓院)
中村康雅(清水・実相寺)
中村瑞貴(仙台・愚鈍院)
野上智徳(静岡・宝台院)
藤田得三(鴻巣・勝願寺)
堀田卓文(静岡・華陽院)
本多義敬(両国・回向院)
真野龍海(大本山清浄華院)
脇 博之(網代・教安寺)
水科善隆(長野・寛慶寺)
宮林昭彦(大本山光明寺)
山田和雄(諏訪・貞松院)
(敬称略・五十音順)

ホームページ <http://jodo.ne.jp>

「ゆく川の流れば」で始まる『方丈記』は、最後お念仏を「兩三遍申して」で終わっている。やはり最後はお念仏しかないということなのだろう。(長)

編集チーフ
編集スタッフ

長谷川岱潤
斎藤晃道
佐山哲郎
青木照憲
村田洋一

浄土

七十八巻四月号 頒価六百元
年会費六千円

昭和十年五月二十日第三種郵便物認可

印刷 平成二十四年三月二十日

発行 平成二十四年四月一日

発行人 佐藤良純

編集人 大室了皓

印刷所 株式会社 シーディーイー

〒一〇五・〇〇一一

東京都港区芝公園四・七四明照会館内

発行所 法然上人鑽仰会

電話 〇三三・五七八・六九四七
FAX 〇三三・五七八・七〇三六
振替 〇〇一八・八・八二八七

絵図に見る法然上人

春の一日、こどもたちが竹馬遊びをしています。この場面は、法然上人が、竹馬遊びをする年頃から、ときどき西の壁に向かって念仏をしていたという逸話をあらわしたもので、画面の左端に壁に

向かう子どもが描かれています。法然上人が子どもの時から他の子とは少し違って、西の方にある極楽浄土に憧れを持っていたということを強調しています。



アイエムが目指す 「寺院ルネッサンス」とは…

日本人の心があぶない！ そう感じたとき
寺院と周縁のはざまで活動する私たちアイエムに
ひとつの気づきがありました。

「寺院とは地域の人々の“苦”と向き合い

“学び・癒し・楽しみ”があり、人々を

元気にしてくれるところでなければ」と。

このような寺院と周縁の間に新しい信頼関係を築く
支援活動が、寺院ルネッサンス活動なのです。

今、アイエムでは寺院から地域・周縁への
各種文化発信行事の開催を
支援致しております。



お堂コンサート



寄席

お堂能

創業
30年

周縁と寺院を結ぶ
株式会社 アイエム

東京都中央区京橋 2-8-1 八重洲中央ビル
Tel.03-3535-5555 Fax.03-3535-2730

インターネット [アイエム](#) で 検索